

平成 17 年度 春期

システム監査技術者 午後Ⅱ 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
2. この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読んでください。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 試験時間は、次の表のとおりです。

試験時間	14:10 ～ 16:10（2 時間）
------	---------------------

途中で退出する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退出してください。

退出可能時間	14:50 ～ 16:00
--------	---------------

5. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ～ 問 3
選択方法	1 問選択

6. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
7. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いませんが、どのページも切り離さないでください。

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”の記入方法

あなたの所属部門と，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要について記入してください。

①～⑪の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものをすべて○印で囲んでください。

問1 システム監査の品質確保について

情報システムの企業内における役割の拡大、更には社会にもたらす影響の拡大に伴って、情報システムに関する経営者の管理責任が強く求められるようになっている。例えば、情報漏えいや重大なシステムトラブルが発生した場合には、経営者の管理責任が問われることがある。そこで、経営者の管理責任を果たす上で、システム監査が重要な意味をもつことになる。

システム監査の役割は、独立した立場にある監査人が、情報システムに関するリスクに対して、適切なコントロールが構築・維持されているかどうかを客観的に点検・評価するとともに、コントロールの有効性や効率性を高めるための改善勧告を行うことといえる。このような役割を果たすためには、システム監査の品質を確保し、高めていくことが重要になる。

システム監査の品質の確保及び向上においては、監査手順の遵守、適切な監査手続の実施、監査調書の作成・保存などの対応だけではなく、経営にとって有益な監査報告を行うことが重要である。そのためには、システム監査人の育成及び教育、監査業務プロセスの継続的な改善、監査部門内での品質チェック、外部の第三者による品質評価などが必要になる。

情報システムに対するコントロールを高めていく上で重要な役割を担うシステム監査人は、システム監査の品質を確保し、向上させるように努めなければならない。また、実施したシステム監査の品質確保の状況について、経営者や第三者に明確に説明できるようにしておくことも大切である。

上記に基づいて、設問ア～ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが携わったシステム監査の目的と概要について、システム監査の品質確保の重要性と関連付けて、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アに関連して、システム監査の品質が十分でない場合に、どのような問題が発生すると考えられるか。具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた問題について、システム監査の品質を確保し、高めるために必要な取組について、具体的に述べよ。

問2 サービスレベルマネジメントの監査について

情報システムの運用・保守業務をアウトソーシングする企業が増えている。加えて、データ入力、帳票の印刷・発送業務、コールセンタ業務などを一括して委託する、ビジネスプロセスアウトソーシングと呼ばれる形態も現れてきた。

このような状況において、提供側と利用側との間で、サービスの提供時間や障害時の復旧時間などの品質保証項目とその値を定めたサービスレベルを明確にして、確保・維持することが重要な課題になっている。このことは、サービスの提供企業と利用企業との間だけにとどまらず、企業内の情報システム部門とユーザ部門との間でも同じことがいえる。

しかし、利害の対立するサービスの提供側と利用側の間で、サービスレベルについて合意することは、容易ではない。また、サービスレベルに関して合意し、明文化しても、それだけではサービスレベルを確保・維持することはできない。例えば、合意したサービスレベルの定義や前提条件があいまいな場合、サービスの提供側と利用側との間で認識が食い違ってしまったり、時間の経過とともに、当初合意したサービスレベルを維持できなくなったりすることもある。したがって、サービスの提供側と利用側の双方において、サービスレベルを適切に確保・維持するためのサービスレベルマネジメントを確立する必要がある。

システム監査人は、監査を通じて第三者的な立場から、サービスレベルマネジメントの確立・維持に重要な役割を担っている。

上記に基づいて、設問ア～ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが関係した情報システムの運用・保守サービスの概要、及びそのサービスにおいて重要となるサービスレベルについて、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アに関連して、サービスレベルの合意が容易でない理由、及び合意の形成過程において内部監査人や外部監査人が果たす役割について、具体的に述べよ。

設問ウ 設問アに関連して、サービスレベルマネジメントが適切に確立・維持されているかどうかを監査する場合の監査手続について、具体的に述べよ。

問3 情報システムの全体最適化とシステム監査について

企業を取り巻く経営環境の変化に伴い、企業では新たなビジネスモデルの構築、事業や組織の再編などの経営戦略によって企業価値を高め、競争優位を獲得・維持しようとしている。情報システムは、これらの経営戦略を迅速かつ効果的に実行するための基盤としてとらえられている。

しかし、情報システムの多くは、それぞれの業務を支援する目的で、個別に検討され、構築・導入がなされるとともに、ビジネス要件や情報技術の変化などに伴い、機能の追加や変更が繰り返されてきた。その結果、企業全体としてみた場合、情報システム群が複雑になり、全体像を把握できなくなったり、情報システム間でデータや機能などが重複し、整合性がとれなくなったりしている。例えば、在庫管理や販売管理のシステム化に際して、企業としての在庫の定義やデータ構造を統一せずに個別に構築したことから、物流拠点の出庫データと販売店の入庫データが一致しなかったり、在庫データの整合性を図るために新たな処理が必要になったりする場合がある。

このような状況から、企業全体の統一された目標や方針に従って、業務プロセス、データ、適用処理、IT基盤などを整理・体系化して、情報システム全体を改善する全体最適化が求められている。

システム監査においても、個々の情報システムを対象とした信頼性、安全性、効率性などの点検・評価のほかに、企業全体としてみた情報システムの全体最適化の視点から、情報システムを点検・評価すべき場合がある。この場合、システム監査人には、個々の情報システムの範囲に限定される部分最適化とのトレードオフを踏まえて、情報システムの全体最適化について監査することが求められる。

上記に基づいて、設問ア～ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが携わった情報システムの概要について、企業全体としての情報システムからみた場合の問題点と関連付けて、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた内容を踏まえて、情報システムの全体最適化の計画、又は実施状況を監査する場合の監査項目について、具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた監査項目に基づいて監査を実施する場合の手法について、具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

〔 メ モ 用 紙 〕

8. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に、受験番号を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されません。
 - (3) 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの生年月日を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
 - (4) 選択した問題については、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。

〔問 2 を選択した場合の例〕

選 択 欄	1	②	3
-------	---	---	---

なお、○印がない場合は、採点の対象になりません。2 問以上○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。

9. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。
 - (1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。
 - (2) 解答欄は、“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”と“本文”に分かれています。“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”は、2 ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。
 - (3) “本文”について、
 - ・設問アは、800 字以内で記述してください。
 - ・設問イ、ウは、合わせて 1,600 字以上 3,200 字以内で記述してください。
 - (4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
11. 答案用紙は、白紙であっても提出してください。
12. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、® 及び ™ を明記していません。